

イエスのことば 第6回

「それをここから持って行け。わたしの父の家を商売の家としてはならない。」

(ヨハネ 2 : 16)

□文脈の確認

1. メシアはユダヤ人の王として来る (マタ 2 : 2)。そしてメシアの王国では、ユダヤ人のみならず、全世界を治める。
2. イエスをその王であると神が認めた出来事が3つ続いて起きた。
 - (1) イエスがヨルダン川で先駆者ヨハネから洗礼を受けたときに、聖霊なる神が鳩の姿で現れ、父なる神の声が天から響いた。
 - (2) イエスが、荒野でサタンの誘惑を受けて、これを退けた。
 - (3) 先駆者ヨハネが、荒野から戻って来たイエスを指して、メシアであると証言した。
3. 第三の出来事に続いて、イエスの初期の弟子たち5人がそろった。
4. 前回の内容：最初の奇跡、先駆者ヨハネの証言から7日目のこと
 - (1) イエスが5人の弟子たちと共に出席した婚礼の祝宴で、イエスが最初の奇跡を行った。ただし、イエスは、この奇跡を公然とは行わなかった。それは、まだ「イエスの時」が来ていなかったからである。
 - (2) ここでいう「イエスの時」は、イエスがメシアであることを示す奇跡を人々の前でを行い、自分をメシアであると宣言する時である。
 - (3) その時はいつ、どこで開始するのか？ 春の過越の祭り、エルサレムにおいてである。この祭りでは国の内外から多くのユダヤ人がエルサレムに集まる。
5. 婚礼の祝宴に出席した後、イエスは母や弟たち、そして5人の弟子たちといっしょに、ガリラヤ湖畔の町カペナウムに下って行き、長い日数ではなかったが、そこに滞在した (ヨハネ 2 : 12)。カペナウムには、5人の弟子たちのうちの二人、シモン (ペテロ) とアンデレの兄弟の家があった (マルコ 1 : 21~29、マタイ 4 : 13)。
6. カペナウムに滞在して「長い日数ではなかったが」、春の過越の祭りが近づいた。紀元27年の春であった。イエスはエルサレムに上り、過越の祭りにおいて多くのしるしを人々の前で行った。本日のイエスのことばは、そのときイエスが神殿を一時占拠した出来事に関係することばである。

□アウトライン

- A) いよいよ公衆の前に立つ
- B) ヘロデの神殿
- C) アンナスの息子たちのバザール
- D) イエスが神殿から商売人たちを追い出す (神殿を一時占拠した)
- E) 神殿を取り壊してみなさい
- F) 多くの人々が、イエスの行われたしるしを見て、御名を信じた

□A) いよいよ公衆の前に立つ

1. ヨハネ 2:13 「ユダヤ人の過越の祭りが近づき、イエスはエルサレムに上られた」
2. 過越の祭りの人出は、数百万人
 - (1) 国の内外から、数百人とか数千人の単位の巡礼者たちの一行が、続々とエルサレムを訪れた。
 - (2) 過越の祭りにおいて屠られた羊は「60万頭」という記録→10人のグループで1頭を捧げたとすると、600万人が参加したことになるという試算。300万人くらいと推定する学者も。いずれにせよ、町が超過密状態になっていたことは間違いない。
3. イエスがこの祭りの場でしるしを行い、自分をメシアであると宣言するなら、そのうわさは、瞬く間に巡礼者たちの口を通して国の内外に流布されたであろう。

□B) ヘロデの神殿

1. ヨハネ 2:14 「そして、宮の中に」
 - (1) 「宮」とは石造の神殿
 - (2) 神殿域
 - ① 内庭・・・異邦人は入れない。ユダヤ人だけ。
 - ② 外庭・・・異邦人も入れる。
2. 当時のエルサレムの神殿は、再建された第二神殿
 - (1) 最初の神殿は、ソロモン王によって紀元前 960 年頃に建設され、紀元前 586 年、バビロニアのネブカデネザル王によって破壊された。このとき、ユダヤ人たちはバビロンに強制移住させられた（バビロン捕囚）。
 - (2) バビロニアを倒したペルシヤのクロス王は、ユダヤ人たちに帰還と神殿再建を許した。
 - (3) 帰還した民は再建工事に着手したが、周辺異民族の妨害により工事は中断し、ペルシヤのダリヨス王の治世のとき、紀元前 516 年頃、再建工事を完了した。着工から 20 年であった。神殿再建時の指導者はゼルバベル、大祭司はヨシュア、預言者はハガイ、ゼカリヤであった。
 - (4) 神殿再建後、神殿祭儀を整え、帰還民の信仰を復興させたのは、学者エズラ、総督ネヘミヤ、預言者マラキであった。マラキは旧約聖書の最後の預言者、紀元前 432 年頃。
3. ヘロデによる神殿の大改修工事
 - (1) 紀元前 40 年、ローマ帝国の後ろ盾を得て、エドム人（イサクの子エサウの子孫）のヘロデがユダヤの王となった。その政治的手腕によりヘロデ大王と呼ばれることになるが、ユダヤ人を懐柔するために、紀元前 20 年頃からエルサレムの神殿域の拡張と神殿を豪壮に化粧する工事を開始した。
 - (2) 紀元前 4 年にヘロデ大王が死去したあとも、工事は続けられた。

- (3) 紀元 27 年の春、イエスがメシア宣言した過越の祭りの時も、神殿域の一部ではまだ工事が続いていた。→「この神殿は建てるのに 46 年かかりました。」(ヨハネ 2 : 20)
- (4) 神殿は、色とりどりの大理石や金によって飾られ、「ヘロデの神殿を見ないで、美しい建物を見たとは言えない」と当時言われたほどであった。
4. 第二神殿には、契約の箱はなかった
- (1) それほど豪壮で美しい神殿であったが、バビロン捕囚後に再建された第二神殿には、そもそも、契約の箱はなかった。
- (2) 【補足】ソロモンの神殿の至聖所(奥の部屋)には、契約の箱があった。
- ① 箱の中には、モーセがシナイ山で受けた石の板が 2 枚
 - ② 箱の上には、贖いの蓋
 - ③ 贖いの蓋の上には、ケルビム像 2 体。互いに向き合い、翼を前に合わせ広げて蓋の上をおおうようにしている。
 - ④ ケルビムの翼と蓋の間には、神の臨在を示す光が輝いていた。
 - ⑤ ソロモンの神殿の至聖所(奥の部屋)には、大きなケルビムの像 2 体が翼を横に広げて左右に並んで置かれていた。
- (3) 第二神殿の至聖所(奥の部屋)には、何もなく、床に「基礎の石」と呼ばれる大きな石があるだけであった。

□C) アンナスの息子たちのバザール

1. ヨハネ 2 : 14 「そして、宮の中に、牛や羊や鳩を売る者たちと両替人たちがすわっているのをご覧になり」
- (1) 「牛や羊や鳩を売る者たち」・・・神殿で捧げる犠牲の動物を販売する者たち
 - (2) 「両替人たち」・・・神殿税を治めるために適した貨幣に交換する両替商たち
2. これらの商売人は皆、ある一人の男の営利企業に属していた。その人物とは、先の大祭司アンナス(在位 紀元 6 年～15 年)であった。アンナスと彼の家族は神殿域の管理を掌握し、それを自分たちのファミリー・ビジネスに利用していた。当時のユダヤ教パリサイ派の中では、神殿域での商売人たちを、「アンナスの息子たちのバザール」と呼んでいた(問題視していた)。
3. アンナスは大祭司を退位した後も、娘婿のカヤパ、そして自分の 5 人の息子たちを、大祭司の職に就けるなど、長期にわたり隠然たる影響力を保持した。アンナスはユダヤ教サドカイ派であった。【補足】サドカイ派の主張・・・使徒 23 : 8 「復活はない、天使も霊もない」
- (1) ユダヤ人の歴史家ヨセフスの記録：アンナスは、金銭を貯め込むことに熱心な人物であった。大変な金持ちであるが、一般の祭司たちをあからさまな暴力で脅して金銭を巻き上げていた。

(2) 当時のユダヤ教ラビたちの記録

- ① アンナスは、自分の息子たちを財務長官に、また娘婿たちを財務副長官に着けた。アンナスの息子たちや娘婿たちは凶悪な者たちで、彼らの僕たちはいつも棒でたたかれるので、彼らを恐れていた。彼らは民の中から体格も度胸も凶太い者たちを集め、祭司たちを威嚇して本来祭司たちが受け取るべき「十分の一税」を取り上げた。それに応じない祭司たちを打ちたたくことなどためらいもなかった。
- ② このような強欲や放縦の罪ばかりではなく、アンナス一族の問題は、司法の場にも及んだ。裁きが気に入れない方に向かうと見るや、彼らは毒蛇のように「シー」という音を口から発して、不満の意志を示した。裁きは曲げられ、モラルは地に落ち、イスラエルから神の栄光は去った。

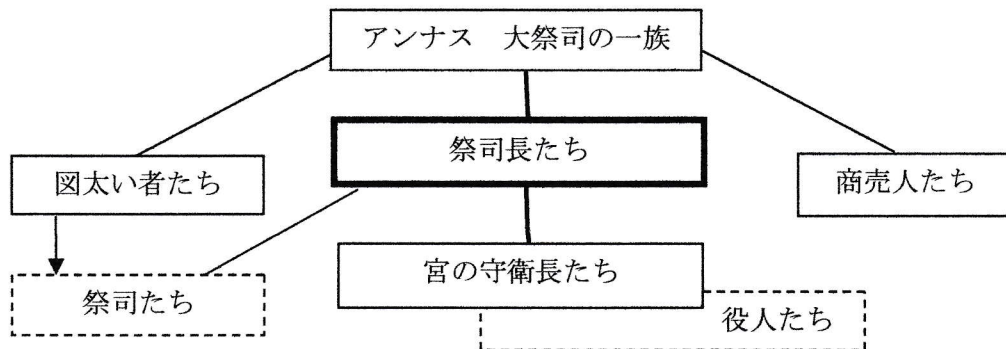
(3) アンナスに関する聖書の箇所

- ① ヨハネ 11:47~49 「そこで、祭司長とパリサイ人たちは議会を召集して・・・彼らのうちのひとりで、その年の大祭司であったカヤパが、彼らに言った。」
 - 現職の大祭司カヤパは、「彼らのうちのひとり」として扱われている。本当の実力者は別にいることがうかがわれる。
- ② ヨハネ 18:12~13 「そこで、一隊の兵士と千人隊長、それにユダヤ人から送られた役人たちは、イエスを捕らえて縛り、まずアンナスのところへ連れて行った。彼がその年の大祭司カヤパのしゅうとだったからである。」
 - イエスが逮捕されて連れて行かれたのは、まずアンナスのところ。
 - その場所は、大祭司の家。アンナスは大祭司を退位したあとも、大祭司の官邸に住んでいた。
 - 18:19、22 では、アンナスは「大祭司」と呼ばれている。
- ③ 使徒 4:5~6 「翌日、民の指導者、長老、学者たちはエルサレムに集まった。大祭司アンナス、カヤパ、ヨハネ、アレキサンデル、そのほか大祭司の一族もみな出席した。」
 - アンナスは、大祭司の一族のトップとして登場している。
 - 現職の大祭司はカヤパであるが、大祭司の称号はアンナスに付けられている。
 - ここでの議会への登場の仕方は、まるでアンナスがこの国の元首のようである。

□D) イエスが神殿から商売人たちを追い出す（神殿を一時占拠した）

1. ヨハネ 2：15～16 「細なわでむちを作って、羊も牛もみな、宮から追い出し、両替人の金を散らし、その台を倒し、また鳩を売る者に言われた。『それをここから持って行け。わたしの父の家を商売の家としてはならない。』」
2. 「イエスによる宮清め」と呼ばれる出来事である。イエスの公生涯では 2 回、このときと、3 年後の過越の祭りのときの 2 回、イエスは商売人たちを神殿から追い出した。
3. 神殿で捧げる動物の犠牲
 - (1) モーセの律法では、過越の祭りであれ、他の祭りや安息日のときであれ、犠牲の動物を自分の家畜の中から選んで持ってくるのは、捧げる人、本人である。本来は、祭司が決めることではない。
 - (2) しかし、「傷のないこと、欠陥のないこと」（出 12：5、レビ 22：18～20、申 15：21）が条件。
 - ① そこで、祭司は、捧げられた動物をほふる前にチェックしなければ、となる。
 - ② 問題は、祭司のチェックが細かくなりすぎたり、嫌がらせになったり、さらには賄賂を求めたり、という恐れがあること。
 - (3) アンナス一族の場合
 - ① 適格と認証した動物を販売するという、一見すれば合理的なやり方で、実質は大祭司一族の儲けのために悪用した。
 - ② 「アンナスの息子たちのバザール」の動物は、市場価格よりも割高であった。通常の儲けプラス割高な分までも、アンナス家の収入となった。
4. 神殿税
 - (1) 【補足】 マタイ 17：24 「宮の納入金」 ギティドゥラクモン = 2 ドラクマ
 - ① ユダヤ人が 1 年ごとに神殿に納入する半シェケルの税
 - ② 起源は、出 30：12～13 20 歳以上のイスラエルの男一人ひとりの贖い金
 - ③ その額は、富んでいる者も貧しい者も同額
 - ④ 目的：イスラエルの男子は、その罪が贖われて、主のものとして用いられるように。また、集められた贖いの銀は、会見の天幕の用に当てられる。
 - (2) 当時は、過越の祭りのときに、神殿税を納めた。一人、年間で半シェケル=2 ドラクマ=2 デナリ（労働者の日当の 2 日分）
 - (3) ローマの貨幣は、皇帝の肖像が刻印されているので、不適。神殿税で納める貨幣は、両替商で交換してから納めた。
 - (4) 「アンナスの息子たちのバザール」の両替手数料は、アンナス家の収入になった。

参考図：アンナスの権力構造



5. 5人の弟子たちの思い

- (1) ヨハネ 2:17 「弟子たちは、『あなたの家を思う熱心がわたしを食い尽くす』と書いてあるのを思い起こした。」
- (2) 詩篇 69:9 の引用
- (3) 弟子たちは、イエスが大祭司一族の怒りを買ったことを、すぐに理解した。
- (4) イエスが3年後の過越の祭りで逮捕され、連れていかれてユダヤ人の裁判を受けたとき、イエスを裁いたのは、まずアンナス、そして次にカヤパであった（ヨハネ 18:13、24）

□E) 神殿を取り壊してみなさい

1. ヨハネ 2:18~22
2. ユダヤ人の裁判で、このときのイエスのことばが歪曲されて偽証に利用された（マタイ 26:61、マルコ 14:58）
 - (1) このときのイエスの発言を巡って神殿冒瀆罪に問うために、二人の偽証人が立ったが、証言は一致せず、イエスの有罪立証はできなかった
 - (2) マタイ 26:61 「『わたしは神の神殿を壊そう・・・』と言いました」
 - (3) マルコ 14:59 「『わたしは手で造られたこの神殿をこわすことができる・・・』と言うのを聞きました」
 - (4) 一人の証言は意図に関するもの、もう一人の証言は能力に関するもの → 証言は一致せず（マルコ 14:59）

□F) 多くの人々が、イエスの行われたしるしを見て、御名を信じた

1. ヨハネ 2:23